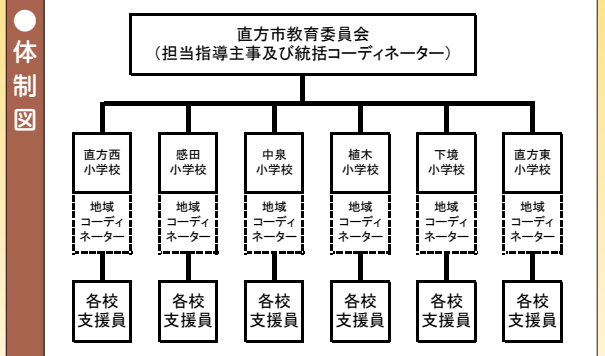


児童生徒の家庭学習の習慣化を図ることを目的として行う学習支援活動

福岡県直方市	● 活動名	● 関係する学校名
	直方市放課後学習	直方市立直方西小学校、直方市立感田小学校、直方市立中泉小学校、直方市立植木小学校、直方市立下境小学校、直方市立直方東小学校

開始年度	平成 27 年度	学級数	23 学級	生徒数	603 人
放課後児童クラブとの連携					
一体型	●	連携型	□	連携なし	□
(連携状況) ■毎回 □定期的に □イベントがある時 □活動場所を共有 (共有の活動場所) 図書室、パソコン室		平均人数		45 人	
統括的な地域学校協働活動推進員の数	1 人	地域学校協働活動推進員の数	1 人	実施場所	施設名：直方市立感田小学校 実施場所：図書室及びパソコン室
ボランティアの数	登録人数 15 人	属性	PTA 役員、保護者、地域住民	学習活動の有無	無
参考 URL					



● 連絡先 直方市教育委員会学校教育課 ☎ 0949-25-2323

● 活動の概要・経緯
平成 26 年度の全国学力・学習状況調査では、平日に家庭学習を全くしない児童が 7.2% であり、帰宅後の家庭での学習習慣、学習時間が大きな課題となった。そこで、平成 27 年度より「決めた時間に、決めた場所で学習する家庭学習の習慣化を図る」ことを目的に直方市放課後学習に取り組み始めた。概要は次の通りである。市内 6 小学校に「地域コーディネーター」を置き、週に 2、3 回、年間約 75 日（1 日 2 時間程度）行う。また、直方市教育委員会に全体の企画立案、各調整等のために「統括コーディネーター」を設置する。実施校は中泉、感田、直方西、植木、下境、直方東小学校の 6 校で（市内の残り小学校 5 校、中学校 4 校は平成 29 年度以降計画に従って順次開設）、支援員は、大学生や教員 OB、地域住民・保護者などを活用する。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

- 教育委員会に市内の放課後学習の企画運営を行う「統括コーディネーター」を配置し、各校区にもその校区の支援員に関することや実際の放課後学習の運営を任せる「地域コーディネーター」を置くことで、事業自体の運営をスムーズにしている。
- 学習内容について、教育委員会及び学校で準備しているものをするのではなく、宿題を含めて自分の課題に応じて自分で学習するものを準備して自主的に進めている。

【実施にあたっての工夫】

- 基本的には、学校に負担をかけないように行っている。（学校にお願いしているのは、チラシ等の配布、自然災害等による開催中止の連絡のみ）
- 教育委員会主体で行う事業から各学校の PTA 主体の事業へと移行できるような仕組みづくり、組織づくりを同時に行いながら進めている。
- 教育委員会（担当指導主事、統括コーディネーター）→地域コーディネーター→学習支援員という連絡経路を確立している。
- 1 カ月間の学習支援員のシフト表を作成し（実施学校ごと）、前月に配布している。
- 市の学力向上推進計画とも関連させ、市独自に家庭学習調査を実施し、取り組みの有効性を検証するとともに、調査結果を次年度の取組に生かすようにしている。

● 事業を実施しての効果・成果

この事業による成果として、平成 28 年度全国学力・学習状況調査における児童生徒質問紙で平日に家庭学習を全くしない児童が 4.5%、平成 28 年 9 月に行った本市独自調査（1～6 年全児童対象）では、同様の質問項目で 1.4% となり、家庭での学習習慣、学習時間といった課題を解決する一助となっている。また、児童・保護者・学校等のアンケートからも次の 4 点が成果として挙げられる。
①児童の家庭学習時間の増加につながった。②児童の自発的な学習の促進につながった。③学ぶ楽しさを体感させることにつながった。④学力補充の一助となった。



友達との学び合いと見守る支援員



支援員による個別指導

ポイント

統括コーディネーターと地域コーディネーターがしっかりと機能を果たした好事例です。成果を数字で捉えている点も評価できます。今後も継続して取り組んでほしいと思います。